



## 6月FOMCの焦点は？

6月11-12日にFOMC（米国の金融政策を決める会合）が開催されます。米国がいつ利下げを開始するかは市場の大きな関心事ですが、今回FOMCでヒントは得られるでしょうか？  
会合前に注目点を確認しておきましょう。

### <POINT>

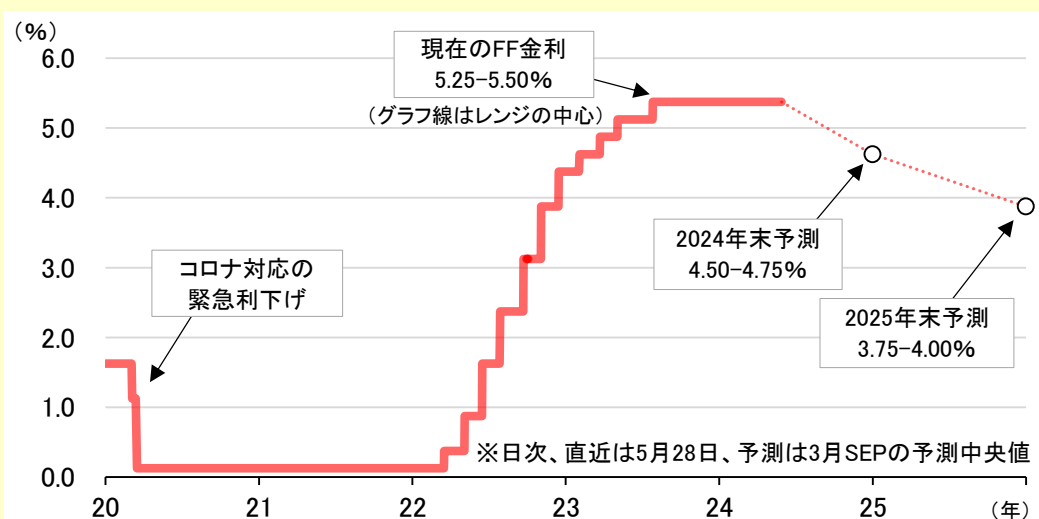
- 参加者による先行きの政策金利予測に注目
- 年内に何回の利下げが見込まれるかが焦点
- 「ドットチャート」の分布にも注目
- 利下げ期待がさらに後退すると相場が変調する可能性も

今回のFOMCの注目点はどこでしょうか？

### 参加者の政策金利予測に注目

- FRB（米国の中央銀行）は2022年3月にゼロ金利を解除し、政策金利（FF金利誘導目標）の引き上げを進めましたが、昨年7月の利上げを最後に据え置いており、今回も据え置きが確実視されています。
- 今回の会合※では、参加メンバーが先行きの経済環境や政策金利水準などを予測した「**経済見通し**」（SEP：Summary of Economic Projections）が公表されます。  
（※3、6、9、12月会合で公表）  
その中で示される**先行きの政策金利見通し**が注目点となりそうです。

### 【米政策金利の推移と3月時点の先行き予測】



(出所)FRBよりちばぎんアセットマネジメント作成

※上記は過去の情報であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

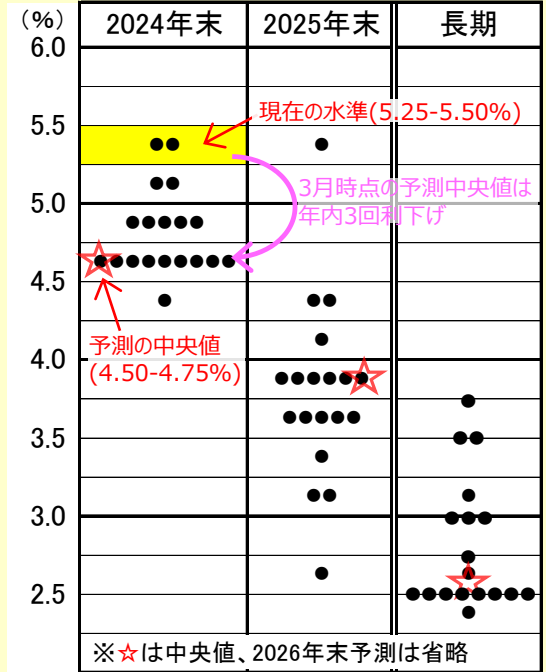


何がポイントとなりそうですか？

## 年内利下げ予測は何回に？

- 3月会合では「年内3回利下げ」が予測中央値でしたが、その後根強いインフレ圧力を示す経済指標が散見されたことから、**足元の市場**の見方は「年内1-2回」程度となっています。
- 会合メンバーから早期利下げに慎重な発言が相次ぐ中、**市場の見方に沿った見通し**が示されるかがポイントとなります。
- 政策金利予測は中央値だけでなく、**ドットチャート**という分布図もあわせて示されるため、市場が警戒する**再利上げ**を見込むメンバーの有無あるいは人数も気になる点です。
- また以前は2.5%近辺に集中していた**長期見通し**がこのところ**上振れ傾向**にあり、この動向にも注意する必要があるようです。

### 【3月FOMC時点のドットチャート】



(出所)FRBよりちばぎんアセットマネジメント作成

市場はどういう場合にどう動くでしょうか？

## 予想される市場の反応は・・・？

- 予測が**市場の見方通り**であれば、安心感から**金利低下・株高**となる可能性があります。
- **利上げを見込むメンバーが複数**、あるいは**年内利下げしないと考えるメンバーが多数**いる場合などは、利下げ期待の後退から**金利上昇・株安**となることが考えられます。
- **長期見通しが大きく上振れる**場合も**金利上昇・株安**となりそうですが、この場合、**長い目で長期金利の低下余地が小さくなる**点に注意が必要です。
- **為替(ドル/円)**は**利下げ期待が後退すると円安・ドル高**が進みやすくなります。
- 5月31日の4月PCE物価指数、6月7日の5月雇用統計、12日(FOMC終了前)の5月消費者物価指数など、**会合前に発表される重要指標**を受けて市場が動くことも予想されます。

※上記は過去の情報または作成時点の見解であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

- 本資料はちばぎんアセットマネジメントが投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。
- 本資料に記載された当社の意見ならびに予測は資料作成時点のものであり、予告なしに変更することがあります。また、本資料は当社が信頼できると考える情報源から得た各種データなどに基づいて作成されていますが、その情報の正確性および完全性について当社が保証するものではありません。本資料中の図表、数値、その他データについては、過去のデータに基づき作成したものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを示唆あるいは保証するものではありません。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。
- 本資料に指数・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。